

ささゆり

麻田春太

ささゆりが首を垂れていた  
風に吹かれて群生し  
わたしを見つめる  
急斜面な山道を  
登り詰めると 墓がある  
迎え火と 線香の煙が  
身に纏わりつく  
熱帯夜が続くと  
あなたを想い出す  
瘦身のささゆりのような

ゆらゆらと

あなたが 向こうからやってくる  
汗に濡れたわたしに  
纏わりつく

夢の中のあなたと対峙し  
こころの襷を震わせながら  
盆を迎える  
撓わな ささゆりのように  
わたしに纏わりつく

残されたものたちの叫びを  
あなたは受け止めてくれるでしょう  
風化した戦の跡を  
妻とふたり

蟬の鳴き声を聞きながら  
里のささゆりを  
あなたに 手向けます